



# 「～ておく」について : 本儀と派生儀からの見直し

水野, マリ子

---

(Citation)

神戸大学留学生センター紀要, 5:21-36

(Issue Date)

1998-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00178761>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00178761>



## 「～ておく」について

－本儀と派生儀からの見直し－

水 野 マリ子

### 1. はじめに

日本語学あるいは日本語文法の研究成果と、教育の現場との効果的な結合はこれまで多くの進歩を日本語教育の世界にもたらしてくれたとっていいであろう。しかし一方で、研究成果がより深く、また洗練の度合いを高めるほど、逆に現場への応用が難しくなる場合も少なくない。学習者にとってあまりにも整理された、抽象的なリストは、本人の理解可能な範囲で知的好奇心を満足させ得るが、日本語の運用力や理解力の向上に貢献する度合いは少ない。そこで、全体的、体系的で矛盾の少ないスマートな理論が構築される必要性とともに、より個別的で具体的な、学習者にとって理解し記憶しやすいアプローチも必要とされている。そこで、常に現場の最先端で学習者の顔を見ながら、一方で体系との間合いを図って、説明や練習内容に工夫をこらしている教師の立場から上述の具体的なアプローチの一つを試みたい。

文法項目初級中～後半で通常扱われる文型の一つに、動詞「て形」に補助動詞「おく」を後接した「～ておく」がある。予測される事態に対する「準備・用意」及び動作や事物の「放置・維持」のアスペクトを表すとされ、多くのテキストで「～てある・～ている」などの他の補助動詞関連項目と並んで提出されている。

これらの既出の教材での扱いは、多く「準備・用意」を基本的意味として中心に据え、「放置・維持」を二次的意味として扱うか、または扱わないものがほとんどである。例えば市川は「日本語誤用例文小辞典」(P110) (1997) で「ておく」の誤用が脱落に多いということを紹介した後、次のような記述をしている。

(「(窓を) 開けておいてください。」という例文に対し) ー今開いている窓をそのまま開いた状態にしておくことを表す。しかし、これもある目的、予定、予想 (例えば、あとでその部屋を使う、空気を入れ換えるためなど) があって、「前もって～する」という「ておく」の基本の意味を持つと言えよう。ー

この考え方によれば、全ての「ておく」の例が、何らかの目的や予想を持つことになるが次の例はどうか。

(1) 自転車を放っておいたら、さびてしまった。(大辞林)

(2) 言いたいやつには言わせておけ。

(1) は「さびる」ことは確かに予想できたかもしれないが、主節の「しまった」が意外性をあらわしていることから、これは否定される。(2) は、あとで仕返しをするとか、見返してやることなどを予定や目的として持った表現ととらえられるかどうか。むしろ現状を認めてそれを放置することに積極的な表現ととらえたほうが自然ではないのか。

一方、吉川(1989)では「ておく」に前接する動詞に注目し、その設置動詞か処置動詞かの違いが、「ておく」全体の表すアスペクト的意味の違いをもたらすとする。また「～ておく」の用例として次のような分類を行っている。

－ [1] 対象を変化させ、その結果の状態を持続させること。

(3) 店を開けておく。(以下番号筆者)

(4) 冷蔵庫にビールを入れておく。

[2] ある時までには動作を行うこと(対象に変化を与えること)。

(5) 明日までに本を読んでおく。(処置動詞から)

(6) 夜までに本を並べておく。(設置動詞から)

以上の [1] [2] はアスペクト的な意味である。これから、文脈の助けによって準備や一時的処置の意味になる。－ (P125)

「ておく」全体をアスペクト的な意味と文脈上派生された意味とに分ける考え方は支持できるが、[2] の「ある時までには動作を行う」という意味分類が、「明日までに」「夜までに」という文脈の助けによって成立しているところに矛盾が生じる。つまり、これもアスペクトの意味ではなく、派生的な意味となってしまう。

また、『日本語基本動詞用法辞典』(1989)では補助動詞「おく」の意味・文型を次のように分類している。

－ (1 2) 動作や状態をそのまま続けさせる。

(7) 先生は生徒たちを遊ばせておいた。(以下番号筆者)

(8) 電灯を消しておく。

(9) 解決をつけないでおく。

(1 3) 前もって準備する。

(10) 学生たちは教科書を読んでおいた。

(11) 品物を注文しておく。

(12)食料を買っておく。

(14) さし当たってあることをする。

(13)秘書は電話番号を聞いておいた。

(14)名刺を受け取っておく。(p86) -

非常にシンプルで分かりやすい分類であるが、(13)(14)の例文をこのままで「差し当たってあることをする」例文としてすなおにうけとれるだろうか。「とりあえず」とか「一応」などの一時的処置を表す副詞表現を伴えば、さしあたり、という意味がはっきりするが、副詞なしでは、単にある動作や事態の結果が残留していることに注目する表現とでも言った方がよいように見える。

このように、一見平易で、あまり問題のないように見える「ておく」の表現がよく見るとさまざまな問題を含んでいることが見えてくる。初級の日本語教育の中で必ず取り上げられるこの文型をもう一度その基本儀に戻って考え直し、整理し直して、より分かりやすい形で再提示するのが本稿の目的である。

## 2. 教科書上の扱い

では実際のテキストではどのように扱われているか、いくつかのテキストを概観してみる。

### 2-1. Situational Functional Japanese Vol.2 Notes (筑波ランゲージグループ)

動詞「て形」に後続する各種の補助動詞「ている」「である」などをまとめて紹介する課(第十五課)の中で扱われ、表す意味は次のように説明されている。

#### II. ～ておく : doing something for a future purpose

Examples ①ガールフレンドが来るので、部屋を掃除しておきます。

Since my girlfriend is coming, I'm cleaning my room  
(so she won't think that I am a slob).

②ジュースを冷蔵庫に入れておきました。

I put some juice in the refrigerator (so that we can  
have a cold one later).

③ (aftr eating at a restaurant)

A : あれっ、さいふを忘れた。Oh, I forgot to bring my  
wallet.

B : じゃ、私が払っておきます。In that case I'll pay (for  
the moment).

④A : 窓を閉めましょうか。 Shall I close the window?

B : いや、そのまま\*開けておいてください。

No, please leave it open  
(as it is).

\*そのまま as it is

### 【Explanation】

when おく is attached to another verb, it expresses the following:

- 1) doing something for the future (①②) ,or on a temporary basis (③)

そうじしておきます in ① implies a purpose for the action of cleaning; for instance, the speaker may want his girl friend to feel comfortable or prevent her from realizing how messy he really is. Because ~ておく usually implies that the action of the verb relates to a future event.

私が払っておきます (③) usually indicates that B expects A to repay him later; whereas 私が払います has no such implication.

- 2) to leave a state for a future purpose (④)

In, ④, a woman notices an open window and offers to close it; the man tells her to leave it open.

—後 略—

ここでは、すべて目的や予想を持つ文脈であるという説明がなされており、例文①から③までは英語の訳にもその含意が表されているが、④では説明文に表れているのみで、例文の訳にはその含意が見られない。ここに、すべてが目的や予想をもつという説明の矛盾が表れているのではないか。

### 2-2. 初級日本語 (東京外国語大学付属日本語学校編著)

同じ「て形」に後続する補助動詞のうち、「あげる、もらう、くれる」などの授受表現および「ある」と並べて提出されている。(22課)

〔課文〕 <りょう>

さとう：食堂に大学祭のプログラムがはってありますね。

マリア：あ、見ましたか。あれは私がはっておいたのです。

—中 略—

<小林さんの大学>

小 林：マリアさん、スピーチの準備はできましたか。

マリア：ええ。この間、さとうさんにてつだってもらって、練習しました。でも、ちょっと心配なので、むずかしいことばをわすれないように、メモしておきました。

—中 略—

[ぶんけい・ごい]

- 4 a. 友だちが来るから、へやに花をかざっておきました。(以下符号筆者)  
b. お茶がのみたいから、おゆをわかしておいてください。  
c. 財布やパスポートは、いつも引き出しにしまっておきます。  
d. 旅行のために、新しいかばんを買っておきました。  
e. 今晚パーティーがあるから、昼ご飯はあまり食べないでおきましょう。  
f. いもうとたちが心配するから、父の病気のことは言わないでおきます。  
7 g. 帰って、すぐねられるように、へやにふとんをしいておきました。

明確な形での文法解説がないので例文から扱いを推測するしかないが、例文C以外は全て復文で、従属節が目的ないし予想を表し、準備・用意を表す構文であると位置付けているように理解できる。では例文Cはどのように位置付けているのか、これらの提示文からはわからない。

## 2-3. 現代日本語コース中級Ⅰ（名古屋大学総合日本語センター日本語学科編）

第4課「許可をもらう・許可する」の会話部分で提示され、文法解説が付されている。

[会話] 会話 1 研究室で

アリス：困っちゃったなあ。来週のゼミ。

山 口：どうして。

アリス：わたし、レポーターなんだけだね。

山 口：うん。

アリス：その日、急に国から父が来るの。

山 口：ああ、そう。

アリス：うん。で、悪いけど、かわってくれない、レポーター。

山 口：え。うーん。かわってもいいけど……。どこだった。

アリス：第3章。

山 口：ああ、おれ、その次があたってるんだ。

アリス：あ、そう。じゃ、それはわたしがするから。

山 口：そう。じゃ、いいけど。先生にちゃんとことわっといてよ。

－後 略－

[文法] Ⅲ. Aspect of the -てform of a verb +おく／おきます

A. The -てform of a verb +おく basically means “do something for future use.”

- (例) 1. お客様が来るから、ケーキを買っておきました。  
2. あしたテストがあるので、よく勉強しておきましょう。

B. This pattern also means “leave something as it is, or undone.”

- (例) 1. A：このテープレコーダー、どうしましょうか。  
B：そこにおいておいてください。  
2. A：ルインさん、おこっているんですが・・・。  
B：いまはそっとしておきましょう。

会話文の「ことわっておく」はあとの文法説明のA. “do something for future use.”に相当すると位置付けられているようである。ここで例文A. 1. 2. と会話文とを比べてみる。まずAの2文をパラフレーズすると、

1. お客様の、あるいはお客様が来るためにケーキを買っておく。  
2. テストの、あるいはテストがあるために勉強しておく。

となる。では会話文はどうか。

- 会1 先生のために断っておく。??  
会2 先生が(二人交代の事実を)知るために断っておく。?  
会3 来週のゼミまでに先生に断っておく。

会3は吉川(1989)がアスペクト的意味の[2]にあげた範疇と重なり、準備を表す範疇とは、ずれることになる。

#### 2-4. 新日本語の基礎Ⅱ(海外技術者研修協会編)

「てある」と並べて第30課に提示されている。教師用指導書では次のように解説されている。

2. 1) パーティーのまえに、飲み物を買っておきます

[指導内容]

「～ておきます」は「準備」「措置」「放置」の意味を教える。まず一番わかりやすい「事前準備」の意味を「～(する)まえに」と呼応させた形で導入、定着を図る。

## [導入例]

## ー前 略ー

練習は「旅行に行く前に」「試験の前に」「会議の前に」などと言って、それぞれに適当な準備行為を学習者の発想を生かしつつ「～ておきます」を使って文を作らせる。

## 2) パーティーが終わったら、部屋を片づけておきます

準備の意味が理解できたら、事後措置の場合によく使われる「～ておきます」に移る。これも「～したら」（未来における完了）の言い方と呼応させて意味の定着を図る。

## ー中 略ー

練習は「食事が終わったら」「仕事が終わったら」「勉強が終わったら」と言って、そのあとするべきことを「～ておきます」を使って文を完成させる。

## 3) わたしがやりますから、そのままにしておいてください

最後に現在ある状態をそのままに保つ「放置」の意味の「～ておきます」を導入する。

この表現に関連させて、肯定形と呼応する形で動作・状態の継続の意味を表す副詞「まだ」の用法、動作の主体を表す助詞「が」の用法を教える。

## ー中 略ー

このように「放置」しておくものが自然と「～ておきます」を使って出てくればよい。

「まだ使っていますから、そのままにしておきます。」

「放置」する理由を「継続」の意味の「まだ」を使って理解させる。

## ー中 略ー

## [指導留意点]

(1) テキストで取り上げた「～ておきます」の三つの意味は一度に全部を導入しない。それぞれ「～まえに、～ておきます」（準備）、「～たら、～ておきます」（事後措置）、「まだ～ていますから、～ておきます」（放置）のようにこの段階では呼応した形で練習させたほうが理解

させやすい。

－後 略－

ここでは「準備」「放置」はともかく、「措置」というかなり抽象的な概念を提示したために、「～ておく」本来の意味範疇より、前後の文脈の意味を手がかりに理解や定着を図る方法をとらざるをえないように見える。この「措置」は文例から見て変化や動作の結果の継続と考えられる。これは「放置」が現状維持を中心的意味とするのに対し、現状に変更を加えた結果の維持を中心的意味とする。現状の変更の有無では対立するが、維持、継続という概念では共通であり、共通項でくくれる概念とっていいのではないか。用例、練習のレベルでも、現状の維持と、変化・結果の維持という説明の方が、「措置」という概念よりはるかにわかりやすいし、より広い例文が扱えるのではないと思われる。

### 3. 本義と派生義について

次に、「おく」の本動詞としての意味を考えてみる。国語大辞典（小学館）によれば、「おく」には古くから自動詞と他動詞の使い方があった。自動詞の意味は、「露や霜が生じて、ある場所を占める。また雪などが降って地にたまる。」とある。他動詞の意味は次のように大きく三つに分けられる。

①事物にある位置を占めさせる。

②間にはさみ据える。

③物事をそのままにする。

①の意味の下位区分として「物などを前もって用意する」という意味範疇が上げられており、日本書紀と今昔物語の例文が挙げられている。③の下位区分には「ある状態のままで放っておく。そのままにしてなにもしない。その状態を認めて許す。」という意味が源氏物語、手習の例文とともに挙げられている。さらに他動詞の今ひとつの分類として、補助動詞の用例を次のように挙げている。

「動詞の連用形、またはそれに助詞「て」のついた形に続けて補助動詞のように用いる」

①ある状態をそのまま続ける意を表す。前もってしておく場合にも、したまま放っておく場合にもいう。

万葉・112617

あしひきの山桜戸を開け置きてわが待つ君を誰かとどむる（作者不詳）  
竹取物語

一こと言いをくべき事ありけり。

徒然草・96

見知りておくべし

浮世草子・西鶴織留 5・2

蚊屋の破れもつぎ当てて置きや

②その状態を認めて許す意を表す。

滑稽本・浮世床・初・上

山王さまはおれがひいきだから、おれが宗旨にして置かあ

坊ちゃん 夏目漱石 三

御安くして三十四にして置ませう

これらの例文を見ると、本動詞としての「置く」は、本来事物を一定の位置や状態にする具体的な動作を指し、そこからそのままにするとか、用意するという抽象的な意味が派生しているように見える。また補助動詞としての用例では、ひとつつつの例に意味区分がつけられていないので、推量の域を出ないが、おそらく万葉の例を、前もってしておく例としてあげてあるのだと思われる。だとすると、後半「わが待つ君を～」以下の部分がない場合、これを用意の例文と断定できるであろうか。これもやはり、文脈的な支えの中から出てくる意味解釈だと言わざるを得ない。具体と抽象という概念については池上(1991)冒頭に述べられているように、「具体的な意味が抽象的な意味に変わるのはその逆の場合よりはるかにふつうというのはほぼ普遍的なことというのが定説」であり、まず具体的な物を「置く」という動作動詞からその他の意味用法が出てきたと考えていいであろう。

#### 4. 本動詞・補助動詞

さて、次に、本動詞か補助動詞かという議論について一言すれば、吉川(1989)の次の記述には大きな問題がある。

一a.にもつはタンスの上にのせておきます。……………「おきます」は本動詞

b.あしたお客が来るから、今日掃除しておきます。…「おきます」は補助動詞

文法で「～ておく」を取りあげるのは、その文法的な意味を理解してもらうためである。本動詞の場合は、つまり語彙的な意味の和として全体の意味が分かるなら、特に取り立てる必要はないわけである。(P121)－(アルファベット筆者)  
a.の「おく」が本動詞であるとするなら、次の例との違いをどう説明するのか。

(15) 彼は机の上にその汚れたハンカチをつまんでおいた。(作例)

本動詞ということであれば、ここでは動詞「つまむ」と「おく」とが並列されていると考えるのが順当であろう。まずハンカチを「つまんで」次に机の上に「おいた」動作である。では「のせておく」はまず「のせて」次に「おく」のであろうか。吉川は同書の中で、設置動詞、処置動詞という概念を導入し、この動詞の種類の違いによってその文脈の意味が変わるという議論を展開している。その設置動詞の中に「のせる」も含まれており、次のように説明している。

－「～ておく」の形でよく用いられる設置動詞は、「おく」を場所、様態、関係、状況、目的などで規定した（モディファイした）意味を表す物が多い。例えば、「入れる」は「中におく」、「のせる」は「上におく」と言い換えられる。(p124)－「のせる」が「上におく」意であり、「のせておく」の「おく」が本動詞であるとするならこの「おく」は明らかに過剰（redundant）な表現になってしまう。また、ここにある設置動詞に後続する「おく」がすべて本動詞だとは吉川自身も言及していない。よって、「のせておく」という表現は、本動詞「のせる」と補助動詞「おく」との結合と考えるのが妥当である。

次に、吉川の処置動詞、設置動詞という概念を今一度考察してみる。前掲書 p122には次のような記述がある。

- －「店を開けておく」では、  
「7時まで 店を開けておく。」  
という言い方ができるが、「本を読んでおく」では  
「\* 7時まで 本を読んでおく。」  
という言い方はできない。  
「7時までに 本を読んでおく。」  
のように「[時間] までに」としなければならない。

### (3) 設置動詞と処置動詞

上の「開ける」のような動詞を設置動詞と言うことにしよう。また、上の例の「読む」のような動詞を処置動詞と言うことにしよう。－

さらに同書p124には主な設置動詞として22の動詞があげられている。この中に「書く・そろえる・まとめる・捨てる」が含まれている。では次の文は成立するだろうか。

(16) 7時まで 手紙を書いておく。\*

(17) 7時まで 資料をそろえておく。？

(18) “ 結果をまとめておく。\*

(19) “ ごみを捨てておく。\*

(17) は「7時以降はそろえておかなくていい。」という含意を認めれば、成立しなくもない文ではあるが、かなり無理のある解釈と言わざるを得ない。これ以外是非文である。また処置動詞として分類されているものに「言う・考える・おぼえる・知る・調べる・習う」がある。作例を見る。

(20) いい機会だから君にひとこと言っておく。

(21) その件は考えておきます。

(22) よくもやったな。覚えておけよ。

(23) そろそろ世間のことを知っておいてもいい年頃だ。

(24) わからない単語は調べておくこと。

(25) 若い時に習っておいた英語が、今役に立つ。

これらのうち、吉川の「処置動詞+ておく」の分類が当てはまるものを見ると、(23)(24)(25)は準備とみていいだろう。(21)は「ある時まで」に行う動作と考えられる。(例：その件は「次にあなたに会う時のために」考えておきます。)(22)はどうだろうか。

(22) 「次におまえに会う時まで」覚えて置けよ。(「までに」ではない)

(22) “ 「次におまえに会う時のために」覚えておけよ。(準備???)

(20)にいたっては「いつまでに」ということも設定できないし、何らかの準備という想定もできない。このように、設置動詞、処置動詞という分類は、意味的に使用頻度の高い語のグループということは言えても、「ておく」構文の機能分類の指標としてはどうも厳密さに欠けるようである。

## 5. 本義と派生義から見た再分類試案

さてここで、以上見てきたいくつかの点をまとめてみる。

- 1) 本動詞「おく」は古来「事物にある位置を占めさせる、物事をそのままにする」という意味を持つ。
- 2) 「ておく」構文中の「おく」はすべて補助動詞であるが、本動詞の色合いを濃く残している用法(載せておく、入れておくなど)から、派生的な意味へと変化したものまでが含まれる。
- 3) 前接する動詞の種類から用法を分類していくやり方にはかなり無理があり、機能を包括的に説明するのに適切とは言えない。

これらの点を踏まえ、以下に分類を試みる。

## 5-1. 本義の用法（現状や動作及び変化の維持、放置、残存）

### ①維持・放置

窓は開けておいて下さい。（今窓は開いている）

窓は開けておいて下さい。（今窓は開いている）

自転車を放っておいたら、錆びてしまった。

言いたいやつには言わせておけ。

### ②意図の残存

いい機会だから君に言っておく。

先生には私から謝っておいた。

ファックスならあとで僕が送っておきますよ。

父の病気のことは彼には言わないでおきます。

①②の違いは、①が「開けた、閉めた、放り出した、言わせる」結果の存続にフォーカスがある、言い換えればある行為の結果や状態をそのままにすることを述べようとするのに対し、②は「言うこと、謝ること、送ること、言わないこと」等の動作そのものに焦点が当てられ、その動作が意図的に行われた結果として残されていることを強調するために「置く」が添えられていると考えられる。従って②の「おく」の方が、補助動詞としての抽象度が高いと言える。この抽象性の故に「ファックスなら僕が送りますよ。」という直接意志を表明する言い方より「送っておく」の方が、婉曲に聞こえる可能性が出てくる。

## 5-2. 派生義の用法（準備・用意、一時的・当座の処置を表す）

### ①準備・用意

会議の資料をコピーしておく。

新幹線の切符を予約しておいてね。

若い時習っておいた英語が今役に立つ。

忘れないようにメモしておこう。

### ②一時的・当座の処置

預かるだけは預かっておいた。

一応、考えておきますよ。

とりあえず符号をつけておきましょう。

①の特徴は、基本的には「～ないように」とか「～のために」のような文脈に支えられて意味が派生することであるが、このほかに「予約」「会議・資料・コピー」

のように一定の語の単独の、またはいくつかの語の組み合わせによって「準備・用意」の意味が派生する場合もあり得ることである。「習う」「調べる」などの到達目標のはっきりした語は、単独で準備、用意の意味を派生させる傾向がある。

⑥も「一応、とりあえず」などの副詞、「～だけは、～する」などの慣用句に支えられて意味を派生する。

## 6. 授業への応用

それでは前節で試みた分類を実際のクラスワークの中でどのように導入、定着を図ったらよいのかを次に考えてみる。

現在は、本稿2で見たように理解や記憶の手がかりの多い「準備・用意」からまず導入されるケースが多いが、これよりは「おく」の本義を色濃く残している「維持・放置」から導入することを提案したい。「準備・用意」の定着が強過ぎて、どの「おく」も全てその意味内容を持つように誤解が進みやすいからである。それよりは、多少印象は薄いかも知れないが、本義の「置く、そのままにする」意味を先に提示し、その派生用法としての準備・用意に移行した方が、より多くの文例を扱えるし、説明の矛盾も少なくなる。「維持・放置」には現状の放置と、現状に変更を加えた結果の放置があるが、一定の状態をそのままにすることに重点を置くことを説明する。つまり具体的には、現在窓が開いているなら、それをそのまま手を加えずに置くことであり、今窓が閉まっているなら、開けてそのままにすることである。初級レベルでは動詞を「開ける、閉める、載せる、並べる」など吉川のいわゆる設置動詞の類にすると、例文が作りやすい。また従来「事後措置」などの意味でくくられていたものも全て基本的にはこの範疇に入れ、よく使われる表現として練習に組み込んでおくのは有効である。一時的・当座の処置の表現は「一応、とりあえず」などの副詞や、「～だけは、～する」などの文型との組み合わせで構成される意味範疇なので、「ておく」文型そのものより、副詞やそれらの文型の提出意図に沿った扱いをした方が扱いやすいと思われる。使役との組み合わせ（例：言いたいやつには言わせておけ）などもそれらの文型の導入後、応用として扱えばいい。

次に目的性の高い「会議の資料をコピーする」「英語を習う」などの例文を「ておく」文型に変え、「何のために？」という点に注目させ、「準備・用意」の意味を導入する。こうして基本義を広く「放置・維持」とし、さまざまな用法はそれに含まれる表現、あるいは派生用法だとすれば、文の解釈に揺れや混乱を

生じないですむはずである。

そして最後に意図の存続を強調する意味を提示する。これは説明が抽象的になりがちで、理解しにくい可能性が高いので、入門期の導入は避け、初級後期か、中級前期まで待ってもいいのではないか。導入方としては「言っとくけど（僕は行かないからね）」などの慣用的な表現の紹介から入り、「おく」を動詞にそえることで、一定の意図を動作そのものでなく、結果や状態として提示する表現であることを理解させる。

## 7. まとめ

以上「ておく」のいくつかの意味、用法を本義と派生義という観点から検討し、その提示法について再考した。日本語動詞のアスペクトの研究は広く深く進んでおり、種々の要素を抽出し、細部に渡った報告が多く提出されている。はじめに述べたようにこれらの成果をそのまま現場に持ち込むことはやはり難しい。そこで、学習者にとってより分かりやすい手がかりを与えながら、学習をすすめるための一つの方略として、本義・派生義を考えてみた。

本稿では前述の通り、個別的、具体的な記述を心がけるために「ておく」に限定して考察したが、状態性と意図性の観点から「てある」との比較は不可欠であろう。稿を改めて検討したい。

## <参考文献>

### 辞書

小学館 「国語大辞典」

日本語教育学会編「日本語教育事典」(1983)

小泉 保他編「日本語基本動詞用法辞典」(1989)

市川 保子 「日本語誤用例文小辞典」(1997)

### 教科書

「Situational Functional Japanese Vol.2 Notes」筑波ランゲージグループ

「初級日本語」東京外国語大学付属日本語学校編著

「現代日本語コース中級Ⅰ」名古屋大学総合日本語センター日本語学科編

「新日本語の基礎Ⅱ」海外技術者研修協会編

### 文献

池上 嘉彦 「『する』と『なる』の言語学」(1983)

吉川 武時 「日本語文法入門」(1989)

工藤真由美 「アスペクト・テンス体系とテキスト」(1995)

## On sentence pattern "te oku"

—Reconsideration from the basic & derivative meaning—

Mariko Mizuno

The studies and analysis of aspect of Japanese grammar are getting more wider and more sophisticated now. It is true that those fruitless results had influenced the scene of Japanese language education, however, the more it is developed, the more it is separated from the scene itself. Those who are engaged in Japanese language education, always have to try to connect these two items.

On this standpoint, this paper tries to analyze one of the Japanese aspect patterns "te oku", from basic and derivative meanings.

At first, make a review of the basic meaning of verb "oku", then examine the various functions of "te oku". At present it is observed that almost all the Japanese Language textbooks treat this pattern to express preparation or arrangement. According to the basic meaning of "oku", it is more natural and easy to understand this pattern introducing not from the meaning of preparation but basic meaning "put". Then consider how to arrange this pattern to the real scene of education.